

山武郡市広域水道企業団 給水装置工事施行基準 新旧対照表

訂正後				現行						
1 総則 ～ 2 設計 2. 6 給水管の分岐 3 (略)				1 総則 ～ 2 設計 2. 6 給水管の分岐 3 (略)						
4 分岐方法 配水管からの給水管の分岐方法は、表 2. 6. 1 によるものとする。				4 分岐方法 配水管からの給水管の分岐方法は、表 2. 6. 1 によるものとする。						
表 2. 6. 1 給水管の分岐方法 単位：mm				表 2. 6. 1 給水管の分岐方法 単位：mm						
配水管の管種・口径		分岐給水管口径	分岐方法	配水管の管種・口径		分岐給水管口径	分岐方法			
ダクタイル 鋳鉄管	φ 50～φ 350	φ 25 φ 30	サドル付分水栓 (コア装着)	ダクタイル 鋳鉄管	φ 50～φ 350	φ 25 φ 30	サドル付分水栓 (コア装着)			
		φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)			φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)			
		φ 400 以上	—			不断水工法 (割丁字管)	φ 400 以上	—	不断水工法 (割丁字管)	
鋼 管	φ 25～φ 400	φ 20 φ 30	断水工法 (既設管切断によるチーズ設置)	鋼 管	φ 25～φ 400	φ 20 φ 30	断水工法 (既設管切断によるチーズ設置)			
		φ 25 φ 30	サドル付分水栓 (ビニル管用：コア装着)			φ 25 φ 30	サドル付分水栓 (ビニル管用：コア装着)			
		φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)			φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)			
鋼 管	φ 400 以上	—		鋼 管	φ 400 以上	—				
		φ 25～φ 40	φ 20 φ 30			断水工法 (既設管切断によるチーズ設置)	硬質塩化 ビニル管	φ 25～φ 40	φ 20 φ 30	断水工法 (既設管切断によるチーズ設置)
		φ 50～φ 150	φ 20 φ 25 φ 30			サドル付分水栓			φ 50～φ 150	φ 20 φ 25 φ 30
φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)		φ 50 以上 (φ 40)	不断水工法 (割丁字管)						
石綿セメント管	φ 50～φ 350	φ 20 φ 25 φ 30	サドル付分水栓	石綿セメント管	φ 50～φ 350	φ 20 φ 25 φ 30	サドル付分水栓			
		φ 50 以上	不断水工法 (割丁字管)			φ 50 以上	不断水工法 (割丁字管)			
配水用ポリ エチレン管	φ 50	φ 20 φ 25	プラグ (止水機能) 付 EF サドル	配水用ポリ エチレン管	φ 50	φ 20 φ 25	プラグ (止水機能) 付 EF サドル			
		φ 30 φ 40 φ 50	<u>不断水工法 (割丁字管) 又は、 断水工法 (既設管切断による丁字管設置)</u>			φ 30 φ 40 φ 50				
	φ 75～φ 150	φ 20 φ 25	プラグ (止水機能) 付 EF サドル		φ 75～φ 150	φ 20 φ 25	プラグ (止水機能) 付 EF サドル			
		φ 50 (φ 30 φ 40)				φ 50 (φ 30 φ 40)				
	φ 75 以上	不断水工法 (割丁字管) 又は、 断水工法 (既設管切断による丁字管設置)		φ 75 以上	不断水工法 (割丁字管) 又は、 断水工法 (既設管切断による丁字管設置)					

訂正後	現行
<p>2設計 2. 7 ～ 3 施工 3. 4 配管工事 6 (3) (略)</p> <p>(4) 融着面のアセトン清掃</p> <p>ア 管に有害な傷がないことを確認すること。傷がある場合は管を切除し、再度融着面を切削すること。</p> <p>イ EF 受け口内面及び管挿し口切削融着面を、アセトンを浸み込ませたペーパータオル(メーカー推奨品又は同等品)で清掃すること。この時、融着面の油脂等が完全に拭き取られていることを確認すること。</p> <p>ウ 清掃後は、融着面に手を触れないこと。触れた場合は、再度清掃すること。ペーパータオルは必ずメーカー推奨品又は同等品を用いること。たとえばティッシュペーパーなどは「けば」がでるので使用してはならない。ウェス等は新品のものでも微量の油がついていたり、布地の種類によってはアセトンで溶けるものもあるので(微量に溶け出すため目や手で分からない)絶対に使用してはならない。また EF 継手等は融着面に泥等が付着しないように、融着直前に梱包から取り出すこと。</p> <p>3. 6 配管工事(6) ～ 分水止工事の費用負担区分 (図-6) (略)</p>	<p>2設計 2. 7 ～ 3 施工 3. 4 配管工事 6 (3) (略)</p> <p>(4) 融着面のアセトン清掃</p> <p>ア 管に有害な傷がないことを確認すること。傷がある場合は管を切除し、再度融着面を切削すること。</p> <p>イ EF 受け口内面及び管挿し口切削融着面を、アセトンを浸み込ませたペーパータオル(メーカー推奨品又は同等品)で清掃すること。この時、融着面の油脂等が完全に拭き取られていることを確認すること。</p> <p>ウ 清掃後は、融着面に手を触れないこと。触れた場合は、再度清掃すること。ペーパータオルは必ずメーカー推奨品又は同等品を用いること。たとえばティッシュペーパーなどは「けば」がでるので使用してはならない。ウェス等は新品のものでも微量の油がついていたり、布地の種類によってはアセトンで溶けるものもあるので(微量に溶け出すため目や手で分からない)絶対に使用してはならない。また EF 継手等は融着面に泥等が付着しないように、融着直前に梱包から取り出すこと。</p> <p>3. 6 配管工事(6) ～ 分水止工事の費用負担区分 (図-6) (略)</p>